スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県 天童市

自 治 体 名 ： 山形県天童市
担 当 課 名 ： 天童市教育委員会学校教育課
電 話 番 号 ： 023-654-1111（内線823）

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	113.02㎢
人口	60,346人 (R6.5.1)
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	1,571人 (R6.5.1)
部活動数	33部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

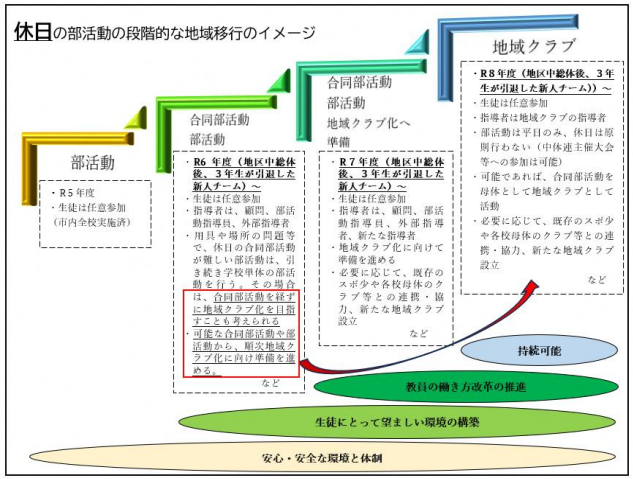
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

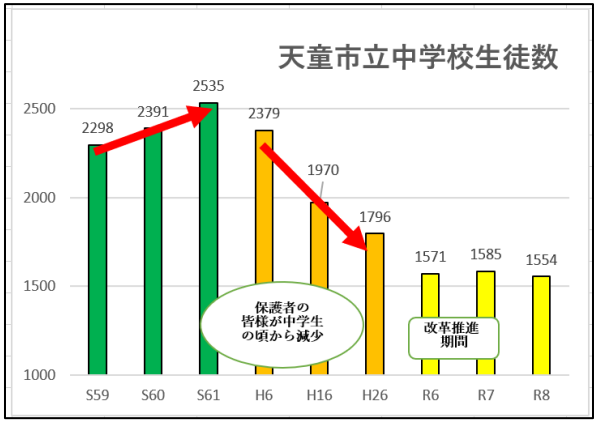
本市は、山形県のほぼ中央に位置し、全国規模の大会が可能な、山形県総合運動公園が立地している。また、モンテディオ山形をはじめとした４つのプロスポーツチームのホームタウンとなっており、スポーツ環境は県内でも恵まれている。

本市では国や県のガイドライン等をもとに、下記のように、地域クラブ化に向けた合同部活動を１つの手段として、部活動地域移行を推進している。今後の見通しとして、令和8年度6月開催の地区中体連総合体育大会後、3年生が引退した新人チームから、休日の部活動は原則行わず、地域クラブへ移行していく計画である。

本市も全国と同じ状況で、今後生徒数が大幅に減少し、合同で活動しなくてはならない状況が推測される。そこで、各中学校の部活動指導員や外部指導者、また協会や連盟の有資格指導者と連携を図りながら、指導ビジョンを共有し、規約、活動計画、組織図、会費規程等を整えて活動できるよう、環境整備に努めている。どの競技においても、生徒にとって望ましい環境づくりを、必要感に応じて推進していくスタンスである。

課題は、有資格指導者の確保と持続可能な部活動地域移行への理解と協力を市民、関係各位とともに推進していくことである。





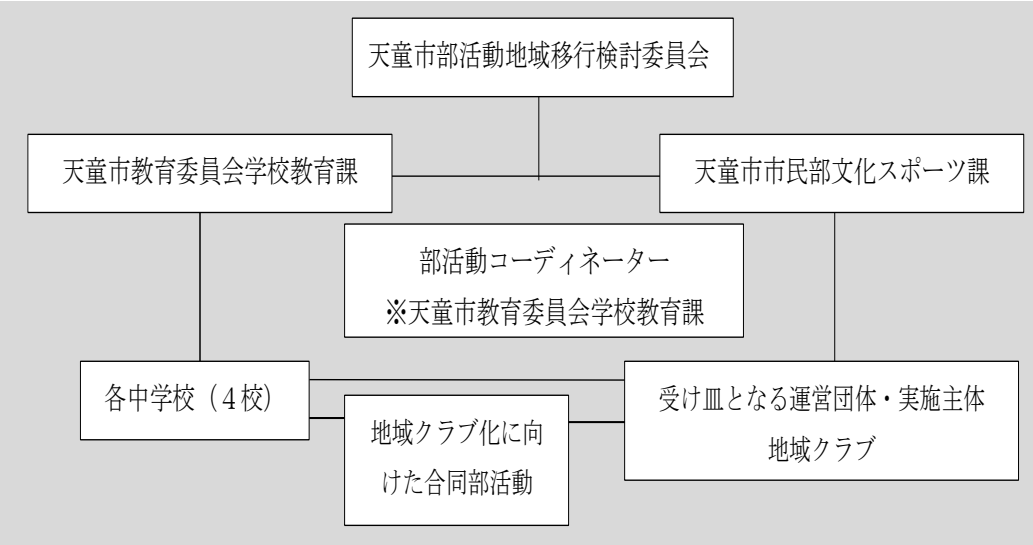
※出典：山形県統計年鑑、本市学校基本調査

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・学校教育課・・・部活動改革の主幹、中学校との調整・連携、外部指導者に係る業務
市スポーツ協会、市スポーツ少年団本部、市芸術文化協会との連携
県中学校体育連盟主催大会の参加に係る地域クラブ確認

◉首長部局

・文化スポーツ課・・・市中体連強化費予算措置
中学生の施設利用に伴う減免措置

年間の事業スケジュール

令和6年　4月	部活動地域移行基本方針通知 市内4中学校のPTA総会で保護者へ部活動地域移行の趣旨説明
令和6年　7月	市スポーツ協会会長会で趣旨説明
令和6年　8月	合同部活動説明会（市中体連） 地域クラブ：東村山ファーストエンジェルス（ソフトボール）立ち上げ
令和6年　9月	部活動地域移行に係る調査実施 ＜顧問へ中学校1・2年生の所属調査＞ 市スポーツ少年団本部委員会で趣旨説明
令和6年10月	合同部活動外部指導者説明会開催 部活動地域移行検討委員会開催 ９月実施のアンケート公表
令和6年12月	部活動地域移行に係るアンケート調査 ＜市立小学校6年児童と保護者＞ 外部指導者へ指導に係るアンケート調査
令和7年　2月	12月実施のアンケート公表

※市文化スポーツ課と協議＜5・8・9・11・1・2月＞

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	４ 校	実施した地域クラブ総数	１クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		１（２）
	東村山ファーストエンジェルス（女子ソフトボール）		
全体の指導者数	２人	全体の運営スタッフ数	２人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
東村山ファーストエンジェルス	天童市	ソフトボール女子	月４回	9:00～12：00	小6年：1人 1年：１人 2年：７人	令和6年８月～令和7年1月	天童市内中学校グラウンド等	指導者２人	２人	月会費 1,500 円	中体連以外の大会 地域クラブで出場

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●団員募集に係る体験会は、随時開催している。

2.実証内容と成果

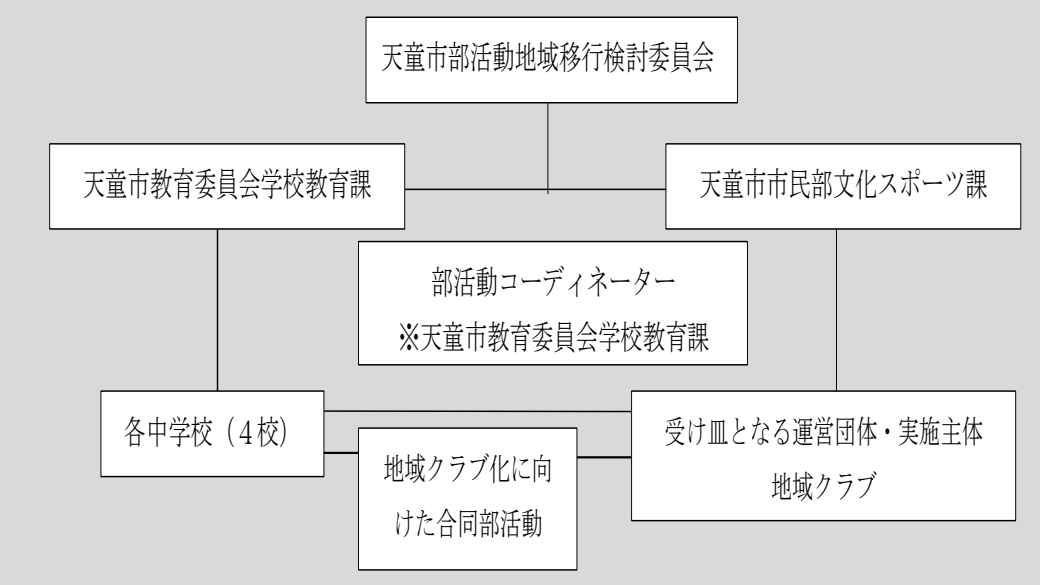
スポーツ庁

主な取組例

●天童市立中学校部活動地域移行　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトボール
運営団体名	天童市
期間と日数	全競技：４月１日 ～ ３月31日 休日　月４回程度 平日　週１～２回程度
指導者の主な属性	中学校顧問　部活動指導員 市スポーツ協会・連盟の外部指導者他
活動場所	天童市内中学校のグラウンド、体育館、 天童市スポーツセンター
・主な移動手段	自転車
１人あたりの参加会費等（月額）	1,500円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり　　：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●天童市部活動地域移行検討委員会・・・有識者による検討・・生徒にとって望ましい環境づくり
<市スポーツ協会・スポーツ少年団本部・市芸術文化協会・教育長・教育次長・市立各中学校長・PTA会長・市PTA連合会>

●天童市教育委員会学校教育課・・・部活動改革の主幹、中学校との調整・連携、外部指導者に係る業務、市スポーツ協会、市スポーツ少年団本部、市芸術文化協会との連携、 県中学校体育連盟主催大会の参加に係る地域クラブ確認 <担当指導主事・部活動コーディネーター>

●天童市市民部文化スポーツ課・・・市中体連強化費予算措・中学生の施設利用に伴う減免措置

●ソフトボールクラブ運営者・・・指導ビジョン、規約、生徒への指導を通したクラブ運営
<指導者2名、運営スタッフ２名>

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

1．本市の部活動地域移行基本方針を各中学校長へ通知

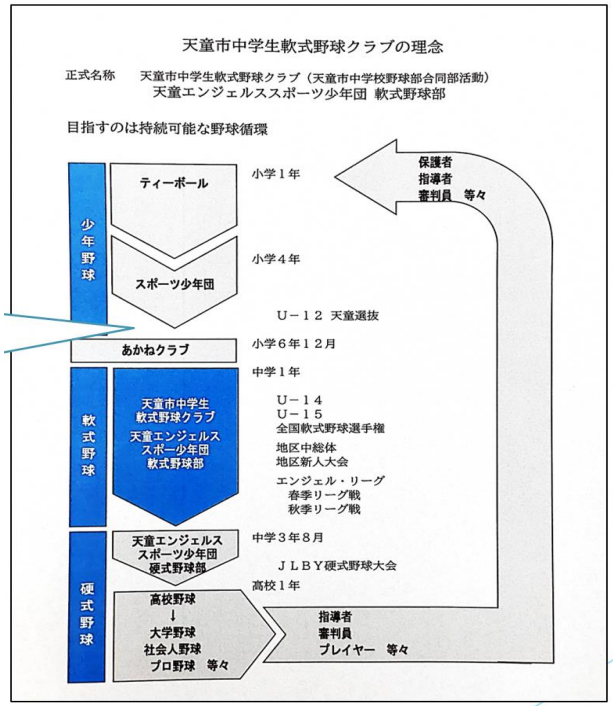
2．部活動地域移行の趣旨説明

・4中学校の保護者
・市スポーツ協会
・市スポ少年団本部委員会

取組の成果

１．年度当初、市内４中学校長宛に本市の部活動地域移行基本方針を教育長名で通知。その後、中学校長会議等で方針内容と今年度の具体的な取り組みについて説明する場を適宜設け、特に地域クラブ化に向けた合同部活動要項と外部指導者要項について周知を図り、同一歩調で進めた。

２．部活動地域移行の趣旨と具体的な取り組みを市内4中学校PTA総会時に保護者へ、また市スポーツ協会へ随時伝達し、周知を図る。特に、部活動の地域移行の先進事例（令和3年度県教委合同部活動モデル地域指定）である『天童エンジェルス（軟式野球部）』は、部員数の減少からクラブの理念と指導ビジョンを共有し、持続可能な野球活動ができる環境づくりを推進している事例であり、部活動地域移行の主旨説明を通して、他競技への波及効果を生んでいる。



※出典：天童エンジェルスの実践　オール天童で野球環境づくりを始める

コーディネーターの具体的な動きの実績

・部活動コーディネーターは、市スポーツ協会の会長であるため、加盟の各連盟や協会への連絡・調整を円滑に行うことができた。また、スポーツ少年団本部とも協議や連携をとりやすい立場にあるため、主旨説明に関しては、それぞれの団体へ適宜、主旨説明ができた。

今後の課題と対応方針

・部活動地域移行の趣旨説明を踏まえ、年度の後半からは活動可能な部活動から合同部活動に取り組んでいる。各競技のこれまでの歩みを土台に、生徒が満足する活動になるような、よりよい環境を整えていくことが課題であり、指導ビジョンや活動内容について顧問や協会・連盟、外部指導者との合意形成を丁寧に図るパイプ役として機能するよう努めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

3．合同部活動

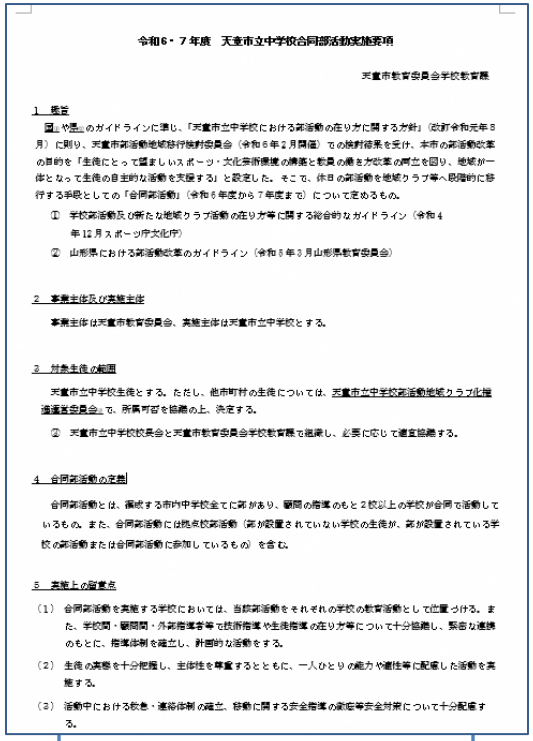
・要項の制定

・合同部活動説明会
（令和6年8月開催）

取組の成果

・本市の部活動地域移行の趣旨を受けて、合同部活動要項を定めた。要項の理解を図るため、市中学校校長会、市スポーツ協会加盟団体、市スポーツ少年団本部等へ機会をとらえて周知に努めた。

・特に、本市中学校体育連盟へは合同部活動の具体的な実践につなげるため、令和6年8月に説明会を開催した。その説明会には、市内4中学区の運動部の顧問が出席し、趣旨への理解を通して、具体的な活動を実施するための活動場所の割り振り、参加生徒名簿作成、緊急時の連絡体制等、の共通理解を図った。その後、年度内に、試行的ではあるが合同部活動を計画し、実施する運動部ができた。（陸上競技・サッカー・ソフトテニス・剣道等）



令和6・7年度　天童市立中学校合同部活動実施要項

天童市教育委員会学校教育課

1　趣旨

国や県のガイドラインに準じ、「天童市立中学校における部活動の在り方に関する方針」（改訂令和元年8月）に則り、天童市部活動地域移行検討委員会（令和5年2月開催）での検討結果を受け、本市の部活動改革の目的を「生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築と教員の働き方改革の両立を図り、地域が一体となって生徒の自主的な活動を支援する」と設定した。そこで、休日の部活動を地域クラブ等へ段階的に移行する手段としての「合同部活動」（令和5年度から7年度まで）について定めるもの。

①　学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（令和4年12月スポーツ庁文化庁）
②　山形県における部活動改革のガイドライン（令和5年3月山形県教育委員会）

2　事業主体及び実施主体

事業主体は天童市教育委員会、実施主体は天童市立中学校とする。

3　対象生徒の範囲

天童市立中学校生徒とする。ただし、他市町村の生徒については、天童市立中学校部活動地域クラブ化推進審議会で、所属可否を協議の上、決定する。

②　天童市立中学校校長会と天童市教育委員会学校教育課で協議し、必要に応じて適宜協議する。

4　合同部活動の定義

合同部活動とは、複数ある市内中学校全てに部があり、顧問の指導のもと2校以上の学校が合同で活動しているもの。また、合同部活動には拠点校部活動（部が設置されていない学校の生徒が、部が設置されている学校の部活動または合同部活動に参加しているもの）を含む。

5　実施上の留意点

（1）合同部活動を実施する学校においては、当該部活動をそれぞれの学校の教育活動として位置づける。また、学校間・顧問間・外部指導者等で技術指導や生徒指導の在り方等について十分協議し、緊密な連携のもとに、指導体制を確立し、計画的な活動をする。
（2）生徒の実態を十分把握し、主体性を尊重するとともに、一人ひとりの能力や適性等に配慮した活動を実施する。
（3）活動中における校長・連絡体制の確立、移動に関する安全指導の徹底等安全対策について十分配慮する。

※出典：本市合同部活動要項

コーディネーターの具体的な動きの実績

・合同部活動要項を作成し、（本市の部活動地域移行の趣旨を踏まえ）合同部活動の定義、実施上の留意点、保護者への周知、連絡体制、安全管理等を定め、市中学校校長会、市スポーツ協会加盟団体、市スポーツ少年団本部等へ周知を図った。
・合同部活動の活動状況や情報交換等を随時行った。

今後の課題と対応方針

・合同部活動が生徒数減少の見込みを捉え、生徒が満足するよりよい環境であることの理解を、顧問と外部指導者で共有していくことが根幹である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

４．外部指導者

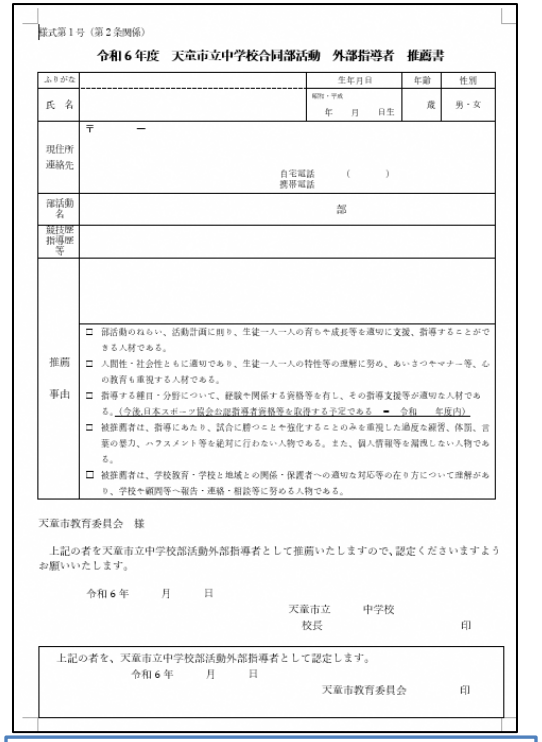
・要項の制定

・合同部活動
　外部指導者説明会
　（令和6年10月開催）

取組の成果

・本市の部活動地域移行の趣旨を受けて、合同部活動外部指導者要項を定めた。要項の理解を図るため、市中学校校長会（市中体連）、市スポーツ協会加盟団体、市スポーツ少年団本部等へ機会をとらえて周知に努めた。

・本市の部活動地域移行の趣旨及び外部指導者要項の周知を図った。特に、運動部の現状、さらに今後合同部活動を経て、令和8年の地区中学校総合体育大会から休日は地域クラブでの活動をめざしている方向性、さらに本市の部活動ガイドライン遵守の確認、並びに資格取得等の説明を行った。



様式第１号（第２条関係）

令和６年度　天童市立中学校合同部活動　外部指導者　推薦書

ふりがな		生年月日	年齢	性別
氏　名		昭和・平成　年　月　日生	歳	男・女
現住所 連絡先	〒　－ 自宅電話　（　） 携帯電話			
部活動名	部			
競技歴 指導歴 等				
推薦 事由	□ 部活動のねらい、活動計画に則り、生徒一人一人の育ちや成長等を適切に支援、指導することができる人材である。 □ 人間性・社会性ともに適切であり、生徒一人一人の特性等の理解に努め、あいさつやマナー等、心の教育も重視する人材である。 □ 指導する種目・分野について、経験や関係する資格等を有し、その指導支援等が適切な人材である。（今後、日本スポーツ協会公認指導者資格等を取得する予定である　－　令和　　年度内） □ 被推薦者は、指導にあたり、試合に勝つことや強化することのみを重視した過度な練習、体罰、言葉の暴力、ハラスメント等を絶対に行わない人物である。また、個人情報等を漏洩しない人物である。 □ 被推薦者は、学校教育・学校と地域との関係・保護者への適切な対応等の在り方について理解があり、学校や顧問等へ報告・連絡・相談等に努める人物である。			

天童市教育委員会　様

上記の者を天童市立中学校部活動外部指導者として推薦いたしますので、認定くださいますようお願いいたします。

令和６年　　月　　日

天童市立　　中学校
校長　　印

上記の者を、天童市立中学校部活動外部指導者として認定します。
令和６年　　月　　日
天童市教育委員会　　印

※出典：市合同部活動外部指導者推薦書

コーディネーターの具体的な動きの実績

・合同部活動外部指導者要項を作成し、外部指導者の要件、認定手続き、指導の留意点等を定め、市中学校校長会、市スポーツ協会加盟団体、市スポーツ少年団本部等へ周知を図った。

今後の課題と対応方針

・合同部活動の実施に向け、顧問と外部指導者、保護者等へ主旨の理解と指導ビジョンや指導計画の共有等を図っていく協議の場を、複数回設定していく連絡調整を今後も行い、必要な援助をしていきたい。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、実証事業における国費については申請せず、受益者負担を原則にした検証を行った。会費から、指導者謝金と消耗品費、一部保険料を支払っている。

地域クラブに係る経費

■受益者負担の分析

・会費（74.6千円）
　・・・一人当たり月1.5千円×9人×６か月
　（８月分のみ1.5千円×１人、0.7千円×８人）

■ランニングコストの分析

会費より
・指導者謝金（30千円）
　　・・・一人当たり月５千円×１人×６か月
・消耗品費（43.8千円）
・保険料（0.8千円）

今後の課題と対応方針

○持続的に活動していくことを前提とした、地域クラブの運営の仕組みづくりは大きな課題である。今年度は、適切な活動を通して、少しでも低廉な受益者負担を保護者へ理解と協力をいただいて、運営することができた。部員の増加が見込めれば、会費の減額も検討することが可能だが、一定数の部員がいなければ賄えないことも今後、想定される。

○活動場所については、現在中学校のグラウンドを主に使用している為、大きな支出はない。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

１　関係者との連絡調整・指導助言の体制や運営団体・実施主体の整備について

・部活動地域移行の概要や地域移行型クラブの新設について、保護者へは市内全中学校のPTA総会において説明を行った。また、市中体連とも連携を図り、部活動の実態に応じ、地域クラブ化に向けた合同部活動の試行について協議し、４競技（陸上・サッカー・ソフトテニス・剣道）で開催することができた。

・市スポーツ協会会長会や市スポーツ少年団本部役員と部活動地域移行の概要を説明した。生徒が主体となった環境づくりと指導者の確保が話題となった。

２　指導者の質の保障・量の確保について

・合同部活動要項とその活動に携わる指導者要項を策定し、指導者の質の保障に努めた。合同部活動担当の中学校長から人物についての推薦をもとに、市で認定するシステムを構築することができた。

・量の確保については、指導者の資格を有する手立てを市スポーツ協会育成強化事業の指導者養成費（新規の指導者資格取得に係る経費の１/２補助）と連携して、今後も進めていくことを確認できた。

●成果の評価

１　関係者との連絡調整・指導助言の体制や運営団体・実施主体の整備について

・生徒や保護者、市スポーツ協会や市スポーツ少年団本部との連絡調整では、概要の周知を図ることができた。

・ソフトボールは指導者も生徒も少人数での組織である良さを生かし、緊密に連携をとりながらクラブ運営ができた。天童エンジェルス（軟式野球）をモデルとして、持続可能なクラブ運営をめざす見通しを、指導者間で共有することができた。

・試行的に合同部活動を行った競技では、実際に生徒や顧問・指導者の声として、競技の専門性に触れる楽しさを味わうことができ、また効率の良い運営をすることができることを肌で感じたという意見が聞かれた。地域クラブ化に向けた貴重な声である。

２　指導者の質の保障・量の確保について

・　指導者アンケートにより、スポーツ指導者の資格を取得している（R7取得予定含む）指導者は60.9%であった。

・ソフトボールの指導者は100%の取得である。

●今後に向けて

１　関係者との連絡調整、運営団体等の整備について

・令和7年度から、地域移行型クラブへのスムーズな移行を加速させるため、各競技ごとの実態に応じ、生徒にとってよりよい活動になるように、丁寧な指導助言をしていく。

２　指導者の質の保障・量の確保について

・指導者の質の向上のため、市スポーツ協会と連携し、指導者研修会を実施する。

・市スポーツ協会の育成強化事業を活用し、指導者の有資格の援助を進めたい。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート広報資料

・アンケート実施の年間計画に則り、下記のように実施した。

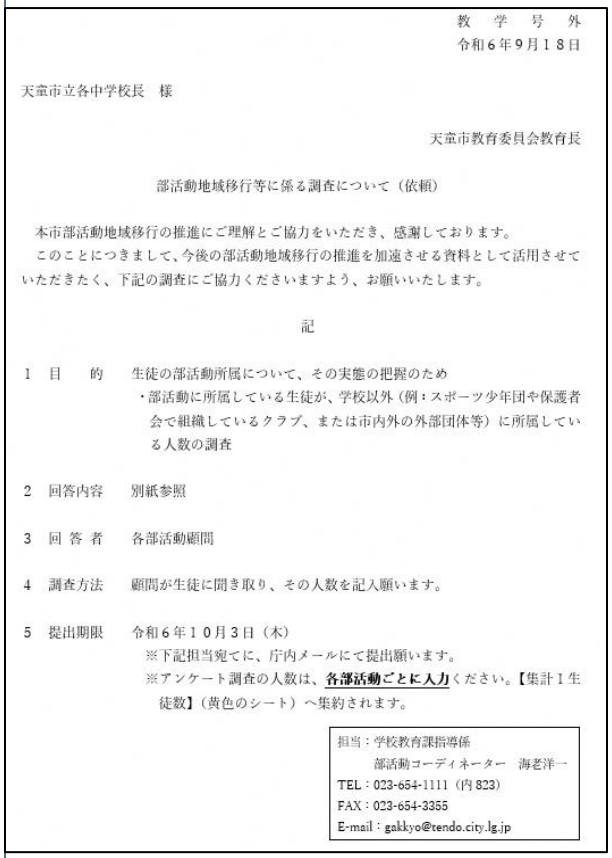
1　部活動所属等アンケート（顧問へ）

対象：中学校1.2年生（1,032人）

2　ソフトボール指導者（２人）運営スタッフ（２名）部員（９人）

3　合同部活動外部指導者(地域クラブ指導者含む)（46人）アンケート

4　市内小学校５・６年児童（900人）とその保護者



教　学　号　外
令和６年９月１８日

天童市立各中学校長　様

天童市教育委員会教育長

部活動地域移行等に係る調査について（依頼）

本市部活動地域移行の推進にご理解とご協力をいただき、感謝しております。
このことにつきまして、今後の部活動地域移行の推進を加速させる資料として活用させていただきたく、下記の調査にご協力くださいますよう、お願いいたします。

記

1　目　的　生徒の部活動所属について、その実態の把握のため
・部活動に所属している生徒が、学校以外（例：スポーツ少年団や保護者会で組織しているクラブ、または市内外の外部団体等）に所属している人数の調査

2　回答内容　別紙参照

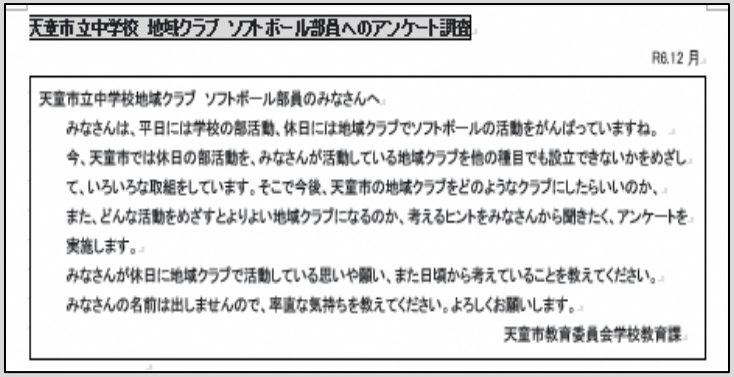
3　回答者　各部活動顧問

4　調査方法　顧問が生徒に聞き取り、その人数を記入願います。

5　提出期限　令和６年１０月３日（木）
※下記担当宛てに、庁内メールにて提出願います。
※アンケート調査の人数は、**各部活動ごとに入力**ください。【集計１生徒数】（黄色のシート）へ集約されます。

担当：学校教育課指導係
部活動コーディネーター　海老洋一
TEL：023-654-1111（内 823）
FAX：023-654-3355
E-mail：gakkyo@tendo.city.lg.jp

【部活動所属等アンケート依頼（顧問へ）】



天童市立中学校 地域クラブ ソフトボール部員へのアンケート調査

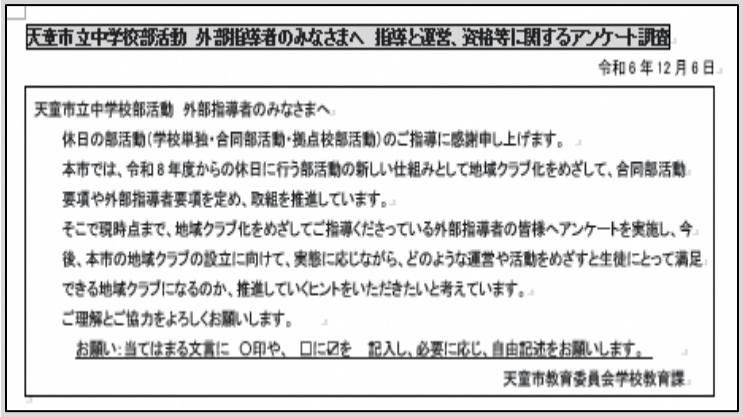
R6.12 月

天童市立中学校地域クラブ ソフトボール部員のみなさんへ

みなさんは、平日には学校の部活動、休日には地域クラブでソフトボールの活動をがんばっていますね。
今、天童市では休日の部活動を、みなさんが活動している地域クラブを他の種目でも設立できないかをめざして、いろいろな取組をしています。そこで今後、天童市の地域クラブをどのようなクラブにしたらいいのか、また、どんな活動をめざすとよりよい地域クラブになるのか、考えるヒントをみなさんから聞きたく、アンケートを実施します。
みなさんが休日に地域クラブで活動している思いや願い、また日頃から考えていることを教えてください。
みなさんの名前は出しませんので、率直な気持ちを教えてください。よろしくお願いします。

天童市教育委員会学校教育課

【ソフトボール部員へのアンケート依頼】



天童市立中学校部活動 外部指導者のみなさまへ 指導と運営、資格等に関するアンケート調査

令和６年 12 月６日

天童市立中学校部活動 外部指導者のみなさまへ

休日の部活動（学校単独・合同部活動・拠点校部活動）のご指導に感謝申し上げます。
本市では、令和８年度からの休日に行う部活動の新しい仕組みとして地域クラブ化をめざして、合同部活動要項や外部指導者要項を定め、取組を推進しています。
そこで現時点まで、地域クラブ化をめざしてご指導くださっている外部指導者の皆様へアンケートを実施し、今後、本市の地域クラブの設立に向けて、実態に応じながら、どのような運営や活動をめざすと生徒にとって満足できる地域クラブになるのか、推進していくヒントをいただきたいと考えています。
ご理解とご協力をよろしくお願いします。
お願い：当てはまる文言に　○印や、□に☑を　記入し、必要に応じ、自由記述をお願いします。

天童市教育委員会学校教育課

【合同部活動外部指導者へのアンケート依頼】



教　学　号　外
令和６年１２月１０日

天童市内小学校
５・６年生の保護者　様

天童市教育委員会学校教育長

休日の部活動地域移行に関するアンケートへの協力のお願い

日頃より、本市の学校教育の推進に協力をいただき、ありがとうございます。
さて、本市では国県の方針を踏まえ、休日の部活動地域移行の推進をしています。特に、休日の部活動の地域クラブ化へ向けて、令和７年度はその準備の年度、令和８年度には準備が整った地域クラブから設立していく年度として、進めています。
そこで、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築を地域と一体となってさらに推進する資料作成のため、来年度と再来年度に中学校へ進学する児童とその保護者へ、意向調査を実施します。
つきましては、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。なお、児童へは各小学校にて回答していただいていることを申し添えます。

記

1　実施する調査　休日の部活動地域移行に関する児童の保護者の意向について

2　対　象　市内小学５・６年生の保護者

3　回答方法及び期限　お子さんの進学予定の中学校区 QR コードを読み取り、**令和7年1月10日(金)までに回答願います。**

保護者用　お子さんの進学予定の中学校区の QR コードから回答してください

天童一中学区保護者　天童二中学区保護者　天童三中学区保護者　天童四中学区保護者

4　そ　の　他　１家庭１回答でお願いします。
（双子や年子のいるご家庭は１回答）

担　当：学校教育課
部活動コーディネーター　海老　洋一
TEL 023(654)1111<内 822>　FAX 023 (654)3355

【小学校5･6年児童･保護者へのアンケート依頼チラシ】

出典:天童市教育委員会学校教育課

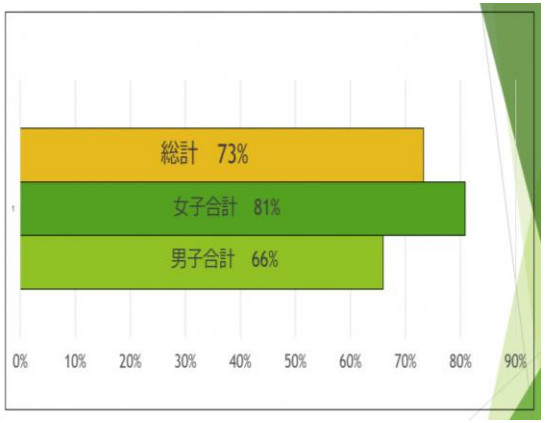
2.実証内容と成果③

スポーツ庁

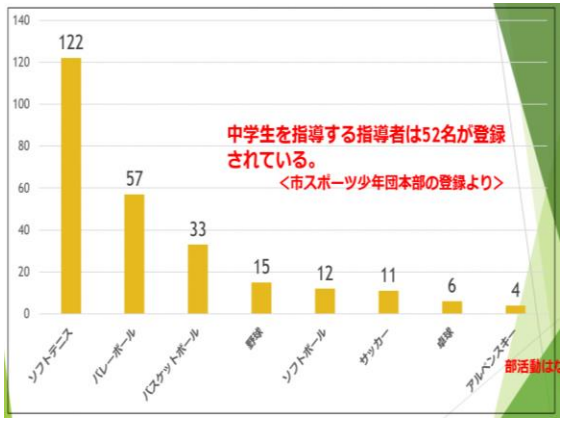
アンケート結果・参加者の声

●部活動地域移行に係る調査結果　（対象：顧問へ中学校1・２年生の所属調査）

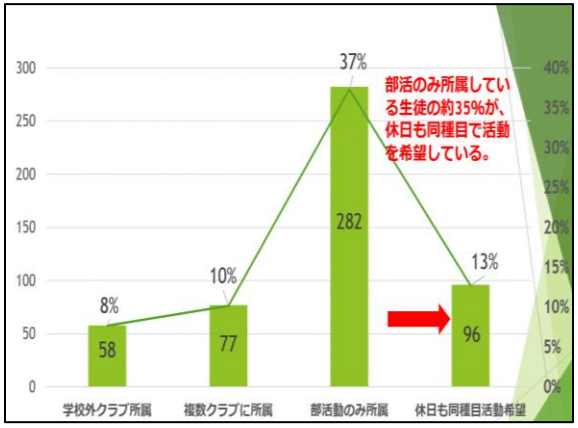
Ｑ１.あなたは、部活動に所属していますか？



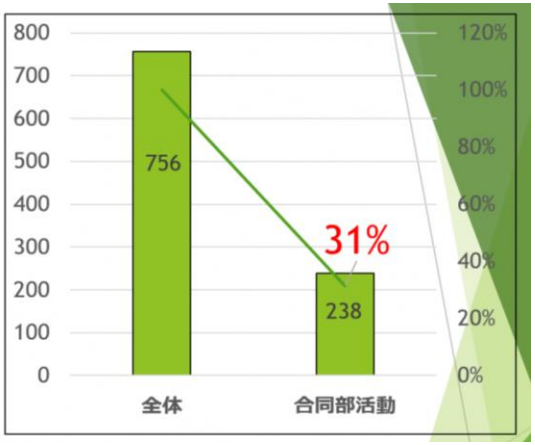
Ｑ２.あなたはスポーツ少年団にも所属して活動していますか?



Ｑ３.あなたは学校外クラブに所属していますか?部活動のみの所属ですか？



Ｑ４.あなたは、複数校の合同部活動に参加していますか?



●アンケート分析

Q1.部活動の所属率について

・総計は73%で前年比－３%。微減だが、生徒数も減少していくことから、今後も所属率も低下していく可能性があると推察している。

・女子の所属率の方が男子よりも高い。

Q2.スポーツ少年団の加入について

・部活動に所属している生徒の約25%がスポーツ少年団にも加入して活動している。

・特に、ソフトテニス11団、バレー４団、バスケットボール2団があり、加入率が高い。延べ52名の指導者がいる。

Q３.学校外クラブの所属、部活動のみの所属について

・学校外クラブ（スイミングや他市町クラブ）に所属しているのは８%で、複数クラブの所属は10%であった。

・部活動のみで活動している生徒は37%で、その中で休日も活動を希望している生徒は13%であった。

Q４.合同部活動の参加について

・部活動に所属している中で、合同部活動（陸上競技、サッカー、ソフトテニス、剣道等）に参加している生徒は31%であった。

・地域移行の1つの手段として、合同部活動を推進したい。

※合同部活動と地域クラブを併用して参加している場合あり。

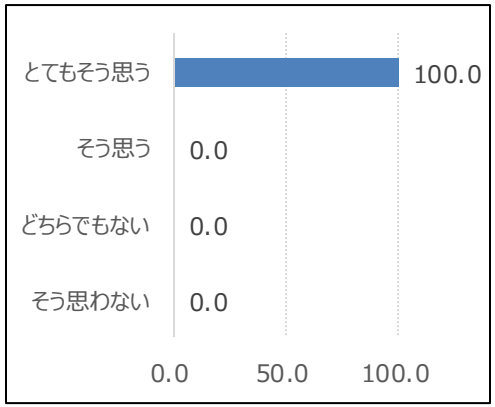
2.実証内容と成果③

スポーツ庁

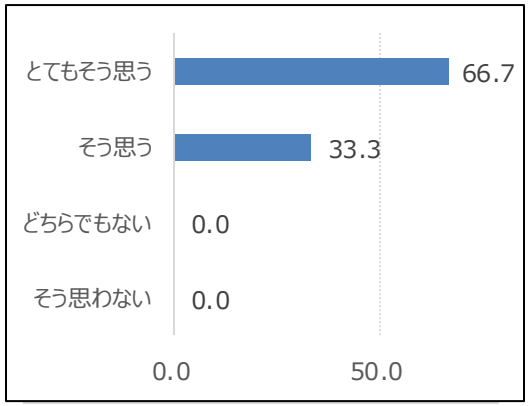
アンケート結果・参加者の声

●ソフトボール部員（9人）のアンケート結果

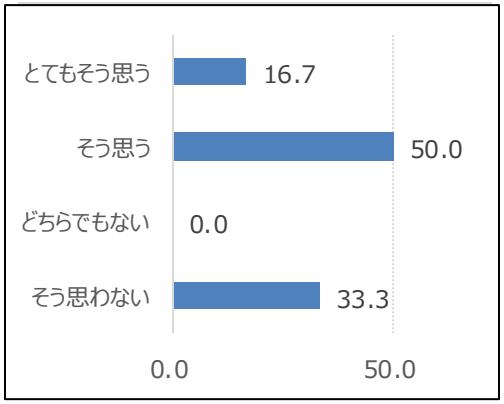
Q１.あなたは、ソフトボールをもっと上手くなって自分を成長させたいと思って活動している。(%)



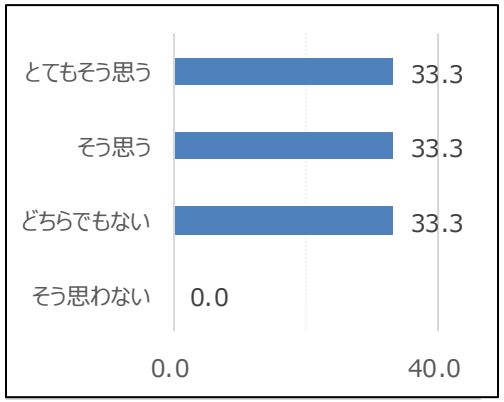
Q２.休日の指導者は、試合に勝っても負けても次の課題を一緒に考えてくれる。(%)



Q３.練習や試合後等で、顧問と休日の指導者は同じ考えで指導してくれている。(%)



Q４.あなたは、ソフトボール競技を卒業してからも続けて活動したいですか？（%）



●ソフトボール部員のアンケートからの分析

Q1.団員の目指している活動について

・回答した団員全員が技能の向上を通して成長したいと願っている。類似のアンケートでも、真剣に活動に取り組みかつ、仲間と助け合い、励まし合って活動している結果が出ている。団員が満足して活動している様子がうかがえる。

Q2.部員の意欲付けについて

・勝敗に関わらず、チームとして試合を通して上手く出来たことや上手く出来なかったことを振り返り、共有し、次の試合に臨んでいく意欲付けは、競技への関心を高め、団員のやる気やよりよい態度に繋がる。（指導者も同様である。）

Q３.指導者の一貫した指導について

・指導者なりの（独自の）指導したい内容の言葉がけが違ってくることは日常的にあると思われる。団員が指導者の指導で迷う場面において、団員自身が納得出来るようチームのコミュニケーションを気軽に図れる環境も大切である。

Q４.団員の競技の継続について

・ソフトボール競技を経験した団員が、今後も持続可能な形で競技を継続していきたいのは、三分の二であった。生涯を通してソフトボールに親しみ、次の世代の団員へ学んだことや経験したことを継承していく資質と能力も育みたい。

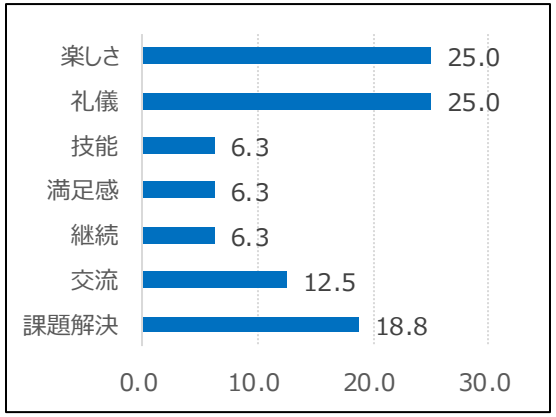
2.実証内容と成果③

スポーツ庁

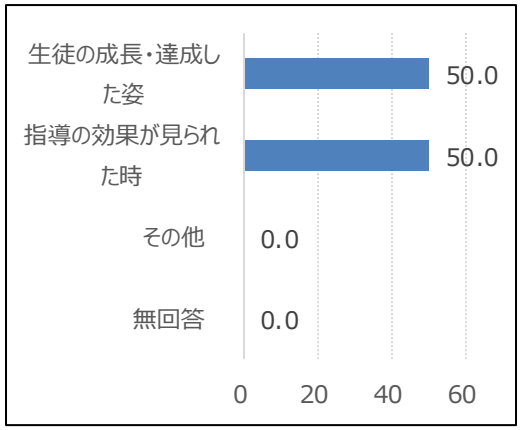
アンケート結果・参加者の声

●ソフトボール指導者（４人）アンケート結果

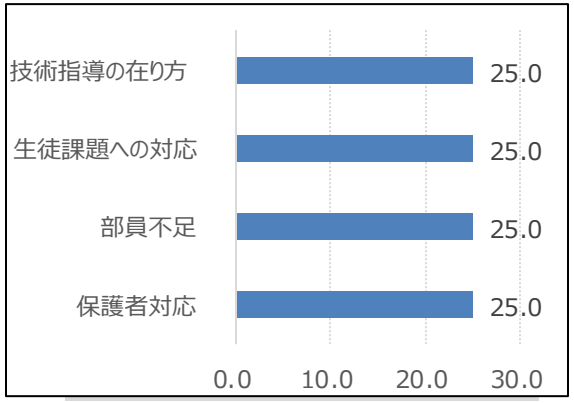
Q１.あなたはどのような活動を目指して活動していますか？（%）



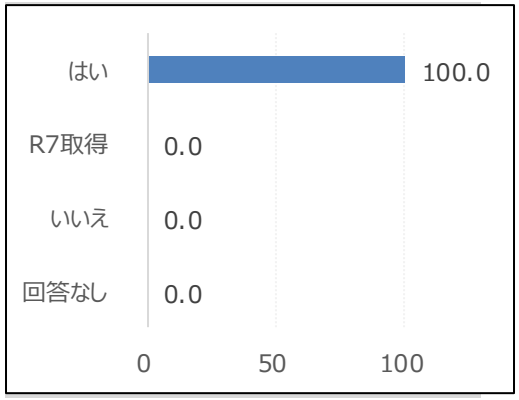
Q２.あなたが指導していて、一番のやりがいを感じていることは何ですか?（%）



Q３.あなたが指導していて、課題に感じていることは何ですか?（%）



Q４. .あなたは、JSPO公認スポーツコーチ等の資格を取得していますか?（%）



●ソフトボール指導者の声

Q1.目指している活動について

・「生徒自身が今までできなかったことや悩んでいることが、指導していく中で上手く出来るようになり、課題解決した時に、達成感を感じています。これからも目指していきたい活動です。」

Q2.指導していての一番のやりがいについて

・「生徒達が活動の中で、楽しく笑って、成果が出せた時にやりがいを感じています。」

・「生徒の成長、笑顔が見られた時です。」

Q３.指導していての課題について

・「生徒一人一人の課題を把握し、自信をつけさせる指導のあり方が課題です。」

・「少子化の問題で部員数の減少と生徒の技能の低下が心配です。」

Q４.スポーツコーチ資格等の取得について

・「資格を活かし、今まで以上に、顧問や指導者間でコミュニケーションを密にしていきたいです。」

・「今後、若い人材（指導者）を確保することと、資格を持った指導者が指導していることを地域に周知したい。」

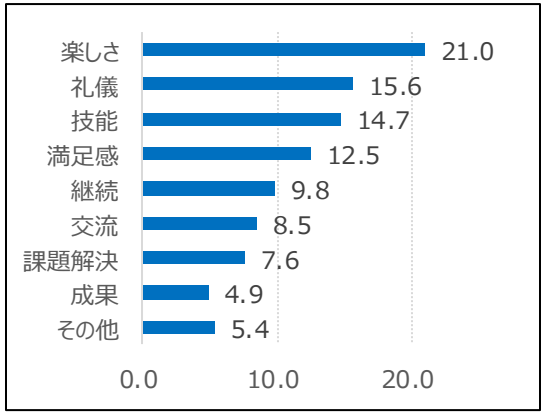
2.実証内容と成果③

スポーツ庁

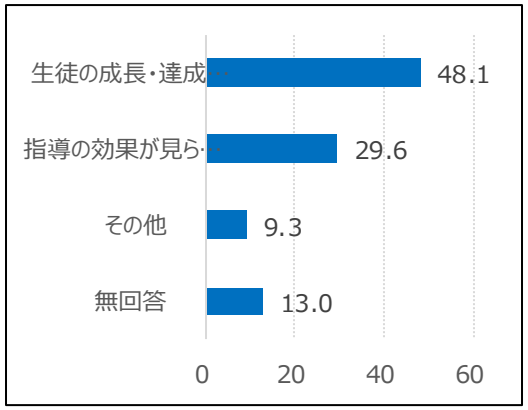
アンケート結果・参加者の声

●指導者アンケート（46人）結果

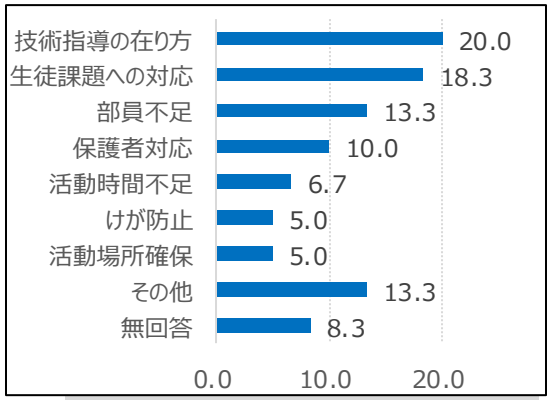
Q１.あなたはどのような活動を目指して活動していますか？（%）



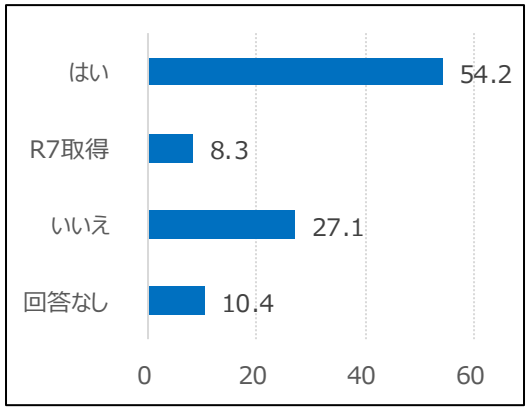
Q２.あなたが指導していて、一番のやりがいを感じていることは何ですか?（%）



Q３.あなたが指導していて、課題に感じていることは何ですか?（%）



Q４.あなたは、JSPO公認スポーツコーチ等の資格を取得していますか?（%）



●外部指導者の声

Q1.目指している活動について

・「生徒一人一人の技能等を把握し、楽しく活動することをいつも考えている。生徒自身に考えさせて行動する力も大切。」
・「技能の他にも、人としての礼儀や仲間を大切にした活動への指導を心掛けている。」

Q2.指導していての一番のやりがいについて

・「できなかったことが、ちょっとしたアドバイスで出来るようになった時の生徒の笑顔を見た時にやりがいを感じる。」
・「生徒一人一人が同じ目標に向かい、チームの一体感が出た時やその瞬間を共有できることが楽しい。」

Q３.指導していての課題について

・「技能を向上させるための手立てが、その生徒に合っているものなのか、日々研鑽をしていく必要がある。」
・「生徒の課題（やる気・自信のなさ・無気力・人間関係）への適切な対応に悩むことがある。」

Q４.指導者資格について

・「顧問と部活動指導員、外部指導者との指導についての連携を図り、生徒が困らないようにすることが重要である。」
・「地域移行を生涯学習にする環境づくりが必要。指導者の資格を取得しやすくすること。」

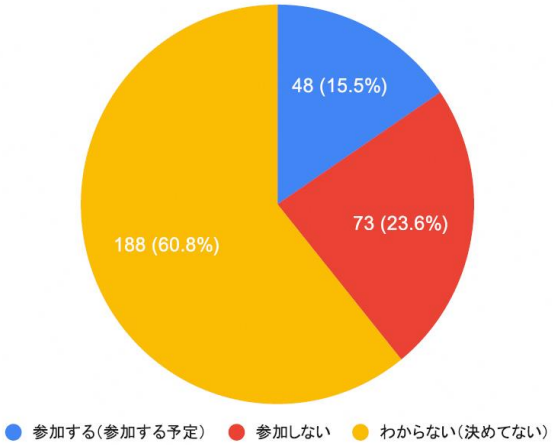
2.実証内容と成果③

スポーツ庁

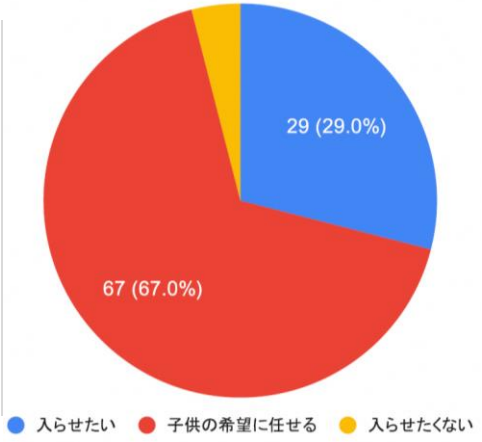
アンケート結果・参加者の声

●市内小学校５年生児童と保護者アンケート結果

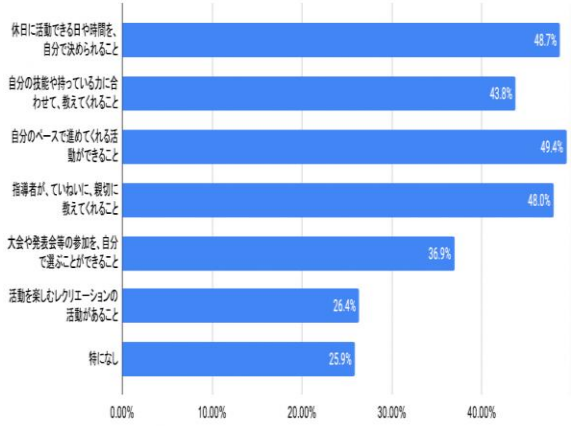
Q１.令和8年度から休日の地域クラブ活動に参加したいですか？（児童）



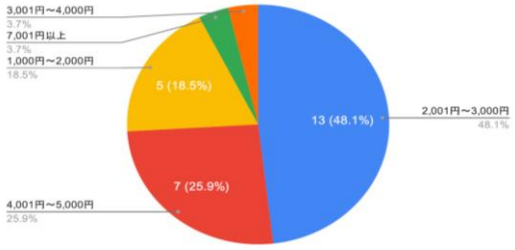
Q２.令和8年度から休日の地域クラブ活動にお子さんを参加させたいですか？（保護者）



Q３.令和8年度から休日の地域クラブでどんな活動に取り組みたいですか？（児童）



Q４.令和8年度からの地域クラブの活動費は月にいくら位が適切ですか？（保護者）



●児童・保護者アンケート結果の分析

Q1.地域クラブ活動の参加について（児童）

・休日に地域クラブで活動したい児童は15.5%、まだ決めかねている児童60.8%、活動しない児童23.6%であった。中学校に入学する令和8年度からの休日の地域クラブ活動について、まだよく捉えていない状況が浮かび上がった。

Q2.地域クラブ活動の参加について（保護者）

・児童と同様、地域クラブ活動の実態が不明のため、入部については「子ども希望に任せる」保護者が67.0%と最も多い。令和7年度の部活動や地域クラブ活動の展開を踏まえながら、家庭内でどう選択するか話題にすると思われる。

Q３.地域クラブ活動の内容について（児童）

・児童は、休日のクラブ活動について、指導者から丁寧で親切に、自分の能力やペースに応じて指導してくれることを望んでいる。また、休日の活動について日にちや時間を選択肢することができる活動を希望する児童の割合が高い。

Q４.地域クラブの活動費について（保護者）

・2,001円～3,000円の負担が適切と考えている保護者が約半数を占め、約76%の保護者は安価な負担を望んでいる。実際の活動に関わる経費について、受益者負担の原則とともに丁寧な説明が求められる。

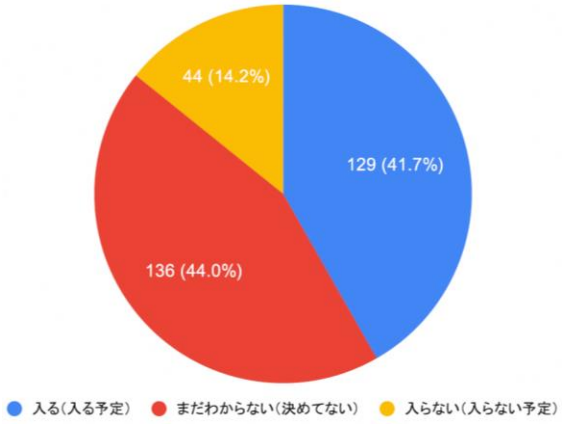
2.実証内容と成果③

スポーツ庁

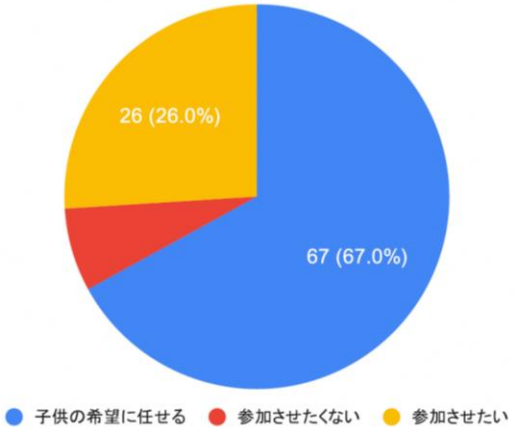
アンケート結果・参加者の声

●市内小学校６年生児童と保護者アンケート結果

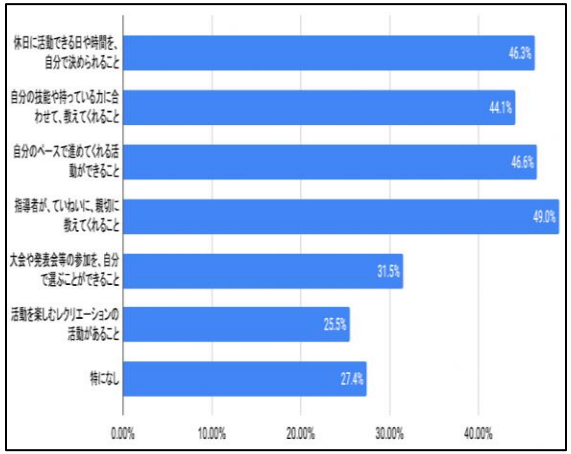
Q１.令和8年度から休日の地域クラブ活動に参加したいですか？（児童）



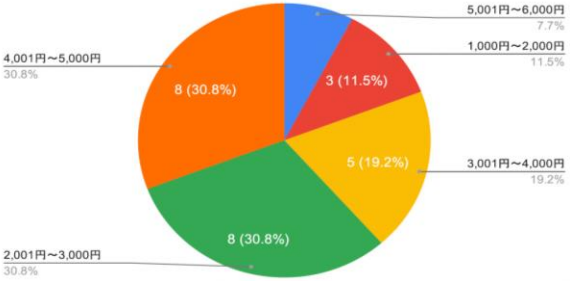
Q２.令和8年度から休日の地域クラブ活動にお子さんを参加させたいですか?（保護者）



Q３.令和8年度から休日の地域クラブでどんな活動に取り組みたいですか？（児童）



Q４.令和8年度からの地域クラブの活動費は月にいくら位が適切ですか?（保護者）



●児童・保護者アンケート結果の分析

Q1.地域クラブ活動の参加について（児童）

・休日に地域クラブで活動したい６年児童は41.7%、まだ決めかねている児童44.0%、活動しない児童14.2%であった。5年生児童に比べると、入部したい児童が約2.7倍にもなり、見通しと活動への期待が膨らんでいると思われる。

Q2.地域クラブ活動の参加について（保護者）

・子供の希望に任せる保護者は5年生の保護者と同じ割合であった。中学校入学後に、子供の選択と共に、特に地域クラブ活動に参加させたくない家庭での話し合いが想定される。家庭への選択肢の情報提供はしていきたい。

Q３.地域クラブ活動の内容について（児童）

・5年児童とほぼ同様に、指導者から丁寧で親切に、自分の能力やペースに応じて指導してくれることを6年児童も望んでいる。また、休日の活動について日にちや時間を選択することができる活動を希望する児童の割合が高い。

Q４.地域クラブの活動費について（保護者）

・5年児童の保護者より、2,001円～5,000円までの割合が80.8%で多く、ある程度の負担がかかることを想定している結果となった。受益者負担と公的負担とのバランスを考えた地域クラブ活動の運営について今後の課題である。

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【東村山ファーストエンジェルス活動（ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ）】



【東村山ファーストエンジェルス活動（ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ）】



【合同部活動説明会（令和6年8月開催）】



【合同部活動外部指導者説明会（令和6年10月開催）】

2.実証内容と成果⑤

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動（ソフトボール）の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年度 → 令和６年７月31日 → 令和７年度～

検討開始 クラブ設立に向けた準備確認 ▶ 顧問・指導者の選定 ▶ 規約の制定 ▶ 地域クラブ活動の開始 ▶ 実際の活動についての調整・相談・助言 ▶ 地域クラブ活動の充実

検討開始 クラブ設立に向けた準備確認

●ステークホルダー

顧問,指導者、部活動コーディネーター

●経過

部員数の減少により、複数校でのチーム編成を行わないとソフトボールができないことを確認。複数校による合同練習を通して、地域クラブ設立をめざす。

●実施にあたって生じた課題

今後、部員をいかに増やしていくかが大きな課題である。

●実施内容、工夫した点 等

スポーツ少年団本部との連携で、軟式野球をしている小学生女子の団員への勧誘等を行い、今後も部活動コーディネーターを介して、情報交換等をしていくことを確認した。

規約の制定

●ステークホルダー

顧問　指導者　保護者

●経過

情報を収集し、規約の策定に向けて協議を行う。

●実施にあたって生じた課題

年間の個人経費について、登録に必要な経費を含めた団費の金額設定や集金方法や時期について、時間をかけて協議を行った。

●実施内容、工夫した点 等

指導料については、上限金額を設定、受け取りの辞退も認め、年度ごとに見直すこととした。また、特別報酬の項目を設定し、チーフコーチやサブコーチの役割も明確にした。

地域クラブ活動の開始

●ステークホルダー

顧問、指導者、部活動コーディネーター

●経過

生徒の目標やニーズを捉え、指導者の指導方針や指導法に違いが出ないように配慮すること。

●実施にあたって生じた課題

平日と休日の活動で指導者が異なる場合の、指導者間の指導に関わる共共通認識の違い。

●実施内容、工夫した点 等

顧問が生徒のニーズを聞き取り、顧問と指導者、部活動コーディネーターが協議した。平日と休日の指導方針や指導法に大きな違いができないように、具体的な指導内容について情報交換をし、生徒理解に基づく指導の在り方の大切さについて共有することができた。（今後も定期的に協議）

実際の活動についての調整・相談・助言 ／ 地域クラブ活動の充実

●ステークホルダー

顧問　指導者　保護者

●経過

団員数が少ないからこそ一人一人への声掛けが可能で、技能を伸ばすことができている。

●実施にあたって生じた課題

団員数が少なくても、保護者のニーズが多様化しているので、コミュニケーションをしっかりとって活動を仕組んでいくこと。

●実施内容、工夫した点 等

今年度は、市スポーツ少年団本部に登録し、市内の３中学校と市内小学生で活動を活動することができた。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

